

MySQL 5.1.52 リリースノート（日本語翻訳）

修正されたバグ:

- **InnoDB ストレージエンジン: セキュリティ修正:** デバッグバージョンのサーバでは、[TRUNCATE TABLE](#) を発行し、同時に [INFORMATION_SCHEMA](#) データベースでそれと同じテーブルの情報を調査すると、クラッシュする可能性があった ([Bug#54678](#))。
- **セキュリティ修正:** [Geometry](#) 以外のタイプの値をタイプ [GeometryCollection](#) ([MultiPoint](#)、[MultiCurve](#)、[MultiSurface](#)) の項目に代入すると、サーバがクラッシュした。現在はサーバがフィールドのタイプをチェックして、不正なパラメータを検出すると、[bad geometry value](#) で失敗する ([Bug#55531](#))。
- **セキュリティ修正:** [EXPLAIN EXTENDED](#) によって、一部のプリペアドステートメントでサーバがクラッシュした ([Bug#54494](#))。
- **セキュリティ修正:** プリペアドステートメントモードで、派生テーブルからの [SELECT](#) の [EXPLAIN](#) でサーバがクラッシュした ([Bug#54488](#))。
- **InnoDB ストレージエンジン:** [LOCK TABLES](#) ステートメントと [UNLOCK TABLES](#) ステートメントが同時に大量に実行されると、サーバがクラッシュした ([Bug#57345](#))。
- **InnoDB ストレージエンジン:** カスケードしている外部キー制約によって削除された行数が 250 を超えた場合、[InnoDB](#) が正しくないエラーをレポートした ([Bug#57255](#))。
- **InnoDB ストレージエンジン:** デバッグバージョンのサーバでは、[InnoDB](#) テーブルの行の範囲に影響を与える [SELECT ... FOR UPDATE](#) ステートメントによって、クラッシュする可能性があった ([Bug#56716](#))。
- **InnoDB ストレージエンジン:** インデックス付きでないカラムだけが変更された場合の [InnoDB](#) テーブルに対する [UPDATE](#) 操作のパフォーマンスが向上した ([Bug#56340](#))。
- **InnoDB ストレージエンジン:** [--innodb-use-system-malloc=0](#) を指定して起動されていたサーバが、シャットダウン時にクラッシュする可能性があった ([Bug#55627](#))。
- **InnoDB ストレージエンジン:** 自動増分カラムが存在する [InnoDB](#) テーブルを、サーバの再起動後に最初に参照するステートメントが [SHOW CREATE TABLE](#) ステートメントである場合、サーバがクラッシュする可能性があった ([Bug#55277](#))。
- **InnoDB ストレージエンジン:** [InnoDB](#) テーブルに [PACK_KEYS=0](#) テーブルオプションを設定すると、テーブルに新しいインデックスを追加できなかった ([Bug#54606](#))。

- **InnoDB ストレージエンジン**: **ROLLBACK** 操作中の **InnoDB** データディクショナリのロックメカニズムを変更して、**REPLACE** ステートメントの同時性を改善した ([Bug#54538](#))。
- **InnoDB ストレージエンジン**: **InnoDB** テーブルに対して **ALTER TABLE...ADD PRIMARY KEY** を実行した後またはテーブル全体のコピーを行う他の何らかの操作を実行した後に、サーバがクラッシュし、それを再起動した場合、リカバリ中に **InnoDB** トランザクションが、後退復帰ではなく、誤ってコミットされる可能性があった ([Bug#53756](#))。
- **パーティショニング**: **レプリケーション**: ステートメントベースのログモードを使用しているときに、**MyISAM** パーティションドテーブルに対して **LOAD DATA** を実行しようとする、マスタがハングまたはクラッシュした ([Bug#51851](#))。
- **パーティショニング**: マルチテーブル **UPDATE** ステートメントに **MyISAM** パーティションドテーブルが含まれる場合、そのテーブルが破損する可能性があった。この問題を調べるには、その **UPDATE** の影響を受けるすべてのテーブルをパーティショニングする必要はなかった ([Bug#55458](#))。
- **パーティショニング**: **EXPLAIN PARTITIONS** が、**MyISAM** パーティションドテーブルに対する範囲クエリについて不正な見積もりを返した。また、**EXPLAIN PARTITIONS** の出力の **rows** カラムの値にパーティションの取り除きが考慮されていなかった ([Bug#53806](#)、[Bug#46754](#))。
- **レプリケーション**: セーブポイントの識別子を囲むバッククォートがバイナリログでは失われていたので、バッククォートのない識別子が誤って解釈されて構文エラーまたはその他のエラーが発生する可能性がある場合にレプリケーションが失敗する可能性があった。

さらに、生成されたセーブポイント ID を使用する MySQL アプリケーションプログラムに問題が発生する可能性があった。たとえば、`java.sql.Connection.setSavepoint()` がパラメータなしで呼び出された場合、Connector/J は自動的にバッククォート (``) 文字で囲まれた 16 進数 **0~F** の文字列で構成されるセーブポイント識別子を生成する。そのような識別子の形式が ``NeN`` (`N` は 10 進数 **0~9** の文字列、`e` は大文字または小文字の「E」) だった場合、識別子がバイナリログに書き込まれたときにバッククォートが削除されて残された従属文字列は、スレーブ MySQL サーバによって識別子ではなく浮動小数点数と解釈された。その結果、構文エラーが発生し、レプリケーションが失われた ([Bug#55961](#))。

[Bug#55962](#) も参照。

- Windows 上で `mysqld` がサービスとして起動され、`mysqld` がファイルにエラーログを書き込んでいる場合（たとえば `--log-error` オプション付きで起動されている場合）、サーバは `stdout` と `stderr` の各ストリームのファイル記述子をログファイルのファイル記述子に再割り当てする。Windows では、`stdout` または `stderr` が出力ストリームに関連付けられていない場合、ファイル記述子は負値を返す。以前は、これによってファイル記述子の再割り当てが失敗し、サーバが中断していた。Windows 上でこの問題を回避するために、現在は `stdout` と `stderr` の各ストリームはまずログファイルをオープンすることによってログファイルストリームに割り当てられる。これによって `stdout` と `stderr` の各ファイル記述子は 0 以外の値となり、サーバは正常にログファイルのファイル記述子にそれらを再割り当てできる ([Bug#56821](#))。
- Valgrind によって検出されたメモリリークは修正された ([Bug#56709](#))。
- クエリで '`YYYY-MM-DD HH:MM:SS`' 以外の形式で `DATE` または `DATETIME` の値が指定された場合、「より多いか等しい」 (`>=`) 条件がインデックス付きの `TIMESTAMP` カラムの「より多い」値にのみ一致していた ([Bug#55779](#))。
- 有効な `SELECT` ステートメントが存在する場合、トリガの実行中にエラーが生成されると、サーバがクラッシュする可能性があった ([Bug#55421](#))。
- テンポラリテーブルを使用して評価されたサブクエリが含まれる `UPDATE IGNORE` ステートメントで、テンポラリテーブルからデータを転送する際のエラーが無視され、表明が生成された ([Bug#54543](#))。
- 行を生成しない行のサブクエリが、行の比較式で `UNKNOWN` 値として処理されなかった ([Bug#54190](#))。
- `MEDIUMBLOB` タイプの `max_length` メタデータ値が、正しい値より 1 バイト大きい値としてレポートされた ([Bug#53296](#))。
- `NOT IN` サブクエリ述語の左側が行で `NULL` 値が含まれる場合、クエリの結果が正しくないことがあった ([Bug#51070](#))。
- 一部のクエリでは、オプティマイザが、`InnoDB` テーブルによるインデックスマージアクセス方法を使用して、正しくない結果を生成していた ([Bug#50402](#))。
- インデックススキャンを使用して評価され、計算されたカラムに対する `LIMIT`、`GROUP BY`、および `ORDER BY` を含むクエリに対して、`EXPLAIN` が生成する `rows` 値が正しくなかった ([Bug#50394](#))。
- `mysql_store_result()` と `mysql_use_result()` はプリペアドステートメントには使用できず、`mysql_stmt_execute()` の後に呼び出されることを想定していないが、そのような方法で呼び出された場合、失敗してエラーを返した ([Bug#47485](#))。

- **MERGE** テーブルに対して **REPAIR TABLE** `table` **USE_FRM** を使用すると、サーバがクラッシュした ([Bug#46339](#))。
- クエリキャッシュが使用され、接続が切断されるエラーが発生した場合、サーバによって送信されるパケットの形式が不正だった ([Bug#42503](#))。
- インデックス定義および外部キー定義で参照されるカラムの定義に大文字と小文字の差がある場合、**CREATE TABLE** が失敗した ([Bug#39932](#))。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。